

令和4年度 第3回瀬戸内市地域公共交通会議 会議録要旨

開催日時：令和4年12月23日（金）13：30～15：00

開催場所：瀬戸内市役所 2階 大会議室

出席委員：大東会長（ノートルダム清心女子大学人間生活学部）

田野副会長（瀬戸内市副市長）

平本委員（両備ホールディングス㈱）

河田委員（東備バス㈱）

尾崎委員（(有)ツルヤタクシー）

坂本委員【代理：重田氏】（(有)ネイチャーワールド自動車）

元浜委員（瀬戸内市商工会）

秋山委員【代理：林氏】（瀬戸内市観光協会）

中尾委員（瀬戸内市老人クラブ連合会）

渡辺委員【代理：渡邊氏】（西日本旅客鉄道㈱中国統括本部岡山支社）

松嶋委員【代理：可兒氏】（中国運輸局岡山運輸支局）

松尾委員（岡山県県民生活部県民生活交通課）

杉山委員（備前市市民生活部公共交通課）

日笠委員（瀬戸内警察署）

吉田委員（備前県民局建設部管理課）

出席委員 15名

委任状提出委員 5名

事務局：総合政策部 岡崎（部長）

企画振興課 青砥（課長）、木村（主査）、鈴木（主事）

1 開会

2 会長あいさつ

岡山県では、新型コロナウイルスの厳しい感染状況が続いている。全国的には観光業などでキャンセルが相次いでおり、公共交通としては非常に厳しい状況である。教育現場でも学生の感染が増えている。市内では民間バスの路線が廃止になり、路線を引き継ぐ形で10月から市営バスの牛窓中央線の運行が始まっている。地域の公共交通をいかに守っていくかということで、非常に重要な局面にある。

本日の会議において、市内の公共交通網を維持していくために、それぞれの立場から多くの発言をいただき、瀬戸内市の公共交通網をどうしていくかを議論することが重要である。

3 議事

(1) 市営バス事業について

---資料 (p 1~4) により、事務局から説明---

《主な説明事項》

- 利用者数の推移
- フリー乗車定期券申請状況

- 会長 ご意見・ご質問はあるか。
 10月に運賃改定があったが、その影響はどうか。また、利用者数も増加傾向にあるが、バスの座席数は足りているかを教えていただきたい。
- 事務局 虫明・長島愛生園線は座席に余裕があり、特に問題ない。10月以降運行している10人乗りの車両でも、積み残しはなかった。
- 会長 運賃の影響はどうか。
- 事務局 利用者からは概ね安くて利用しやすいといった意見をいただいている。

《主な説明事項》

- 美和線のバス停「飯井東谷」の新設

---資料 (p 5~6) により、事務局から説明---

- 会長 ご意見・ご質問はあるか。
- 会長 意見がないようなのでお諮りする。
 異議はないか。
 ～異議なし～
 異議がなしということで合意を確認した。事務局は必要な手続きを進めてください。

《主な説明事項》

- 牛窓-邑久駅線のバス停「師楽入口」の廃止と「弁天」の新設
- バス停に関する要望
- 市営バス ダイヤ改正について
- 虫明・長島愛生園線ダイヤの委託事業者選定スケジュール

---資料（p7～10）により、事務局から説明---

会長 ご意見・ご質問はあるか。

副会長 停留所の位置変更で、地域住民との調整は必要か。また、今回の案件との直接的な関係はないが、牛窓-邑久駅線は牛窓中央線と一部ルートが重なっているため、牛窓-邑久駅線については、師楽で折り返して錦海の堤防を通過して敷井を経由するルートは検討できないか。

事務局 地域への話し合いはこれから。牛窓-邑久駅線のルートの変更は今後の検討としたい。

補足として、現在の牛窓 - 邑久駅線の師楽入口の停留所位置では周辺に居住している方が少なく、主に使われているのが弁天地区に居住している方ということでバス停は現在の位置から変更する。また、牛窓-邑久駅線は牛窓中央線と一部役割が重複するため、地域住民の意見を伺いながら効率的に広範囲をカバーできるようにすることも検討したい。敷井地区に関しては地域住民から市営バス路線を延伸してほしいといった要望を聞いているため、適宜検討していきたい。

会長 今提出しているものは案であり、自治会や警察との調整で変更の可能性があるとこの認識でよいか。

事務局 その通りである。

副会長 虫明・長島愛生園線の委託事業者の選定について、対象事業者は市内のタクシー事業者のみか。プロポーザルで選定するということだが、どのような内容のプロポーザルになるのか、期間的にはどうか。

事務局 プロポーザルは指名型で市内のタクシー事業者7社を指名する。従来からハイエース車両で運行している6路線は市内のタクシー事業者7社を対象として指名型プロポーザルを実施した経緯がある。また、期間は提示しているスケジュールで間に合うと考えている。提案に対する評価項目としては安全に運行していただけるか、乗務員への教育・研修がされているか、こういった利用促進策があるか、市の指示により運行する体制になっているかというあたりになると考えている。

会長 提示しているスケジュールで間に合うのか。

事務局 事務局としては余裕があるが、提案者側の期日は若干短くなる可能性はある。

委員 スケジュールの余裕はあるとのことだが、市としては乗務員は何人を想定されているか。事業者としては何人確保できていればよいか。

事務局 虫明・長島愛生園線は、平日10往復で朝6時頃から19時前までの運行、土日祝日は3往復で朝6時から17時までの運行を担っていただく。市として乗務員の人数

数は指定しない。この便数、この時間を運行できる人数の乗務員を確保してほしい。場合によっては午前午後で交代制になっても構わない。

委員 事業者に運行委託して、市の方は何をするのか。市が指導するなり、提案をしないといけない。これは市営バスではないのではないかと。

事務局 市営バスの運行主体は、あくまでも瀬戸内市である。説明が不足していたが、委託するのはあくまでも運転の部分である。大型二種免許を持っている乗務員の確保などを市内の事業者へお願いすることで効率的に運行したい。運転業務だけでなく、市が預けるバス車両の管理もお願いする。

委員 入札の金額は物価上昇の影響が反映されているのか。

事務局 委託する業務の主な内容は運転業務の部分となる。市が保有する車両を使っただけ、燃料代は市が別途支払う仕組みとなっており、物価高騰が影響する部分はない。

委員 プロポーザルに参加できるかどうかわからないという懸念を持っている。ある程度、どれくらいの人数を必要とされているか。運行管理していく中で、運行時間の算出などに必要な人数が知りたい。2024年に自動車運転手の労働時間等の基準が改正されることもある。現在の運行状況等について、運輸支局から情報はもらえるか。

委員 入札条件や金額を国交省からいうことはできない。
燃料の高騰、物価の上昇は運輸業界だけでなく、全業界で関係している。特に運輸業界は運転手が不足している。バス、タクシーの利用者が減っているため運転手の仕事が減り、他の職種に移っている。また、ウィズコロナ、アフターコロナの流れが出来つつあるが、コロナ禍で離れた人手は戻ってきていない。さらに、運輸業界では2024年に労働基準告示が改正され、労働時間の制約が厳しくなる。現時点で、虫明・長島愛生園線のダイヤを現在の人数で運行できるかはわからないが、市はプロポーザルを実施する段階で必要な人数を把握しておく方が良くもしい。事業者は基準などは把握していただき、困ったことがあれば、労働基準監督署に相談していただきたい。使用されるバスは中型バスであるため、免許の問題や運転手の確保についても市の協力が必要であると認識している。

委員 9月末までは虫明・長島愛生園線のみが市営バスとして運行しており、その時までは2人でまわらないことはないが、1人の運転手の総走行距離が1日あたり約220kmとなり、現実的ではないということで3人は必要であった。休日出勤の問題も考えるとその1.5倍の人数は必要になり、5人が必要ということになる。

委員 バス車両を買うのは市ということだが、車を買って運行するには管理者がいる。体調管理する人材、駐車場の許可、車両を整備する工場も必要である。市は整備工場を保有していないように思えるが運行しても良いのか。

委員 運行管理責任者は市で選任してもらっている。どういうことをするかというと、対面での健康状態のチェック、アルコール検知器を使った酒気帯びの確認、運行

ルートの確認をする。車両の整備管理については工場ではなくても良い。指定のディーラー等に車両の整備を委託することも可能である。バス事業者には整備管理者が必要であるため、整備管理者がいれば整備工場が無くても問題はない。整備士が日々点検できていれば問題ない。

(2) 地域内交通について

《主な説明事項》

- 前島地域内交通
- JR 赤穂線 2023 年春のダイヤ改正について

---資料（p 11～12）により、事務局から説明---

会長 ご意見・ご質問はあるか。

会長 意見がないようなので本日の議事は以上とする。

4 その他

事務局 次回の公共交通会議の日程は改めてご案内をさせていただきます。

5 閉会

副会長 本日は年末の忙しい中、長時間にわたり活発な議論をいただき感謝する。
JR 赤穂線の減便対応といった課題があり、利用促進をどう図るかということや、駅の利便性をどう高めるかということをも市として考えていかなければならない。また、駅に市民が移動するためのバスの利便性の確保も大事になる。ルート、停留所、ダイヤ、サービスの問題などを常に改善しながら、市民の方に喜んで利用してもらえるような取組をしていく必要がある。また皆様方からご意見をいただきながら進めていきたい。